

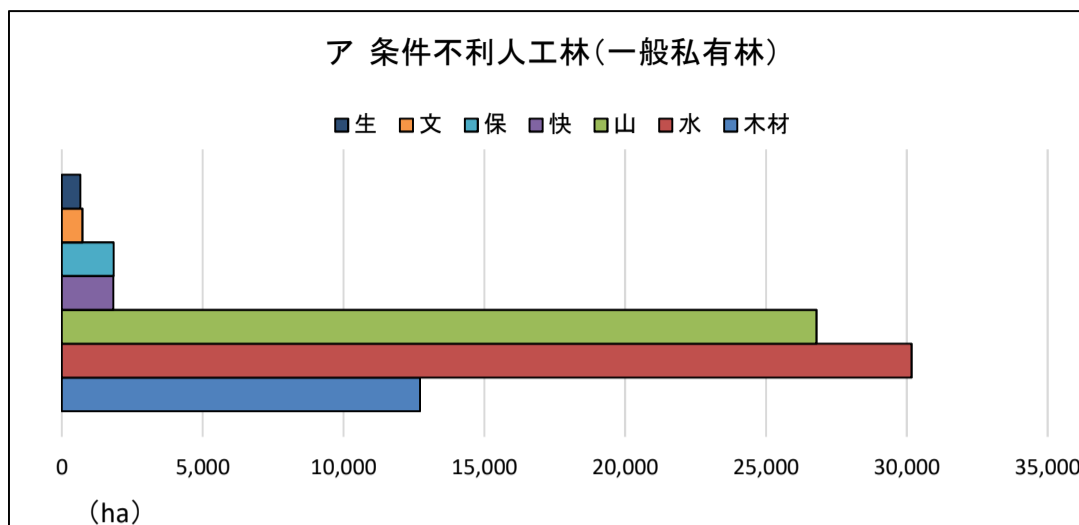
## 本県の森林の現状等について

# 区分ごとのゾーニング(期待する機能)について

資料 4-1

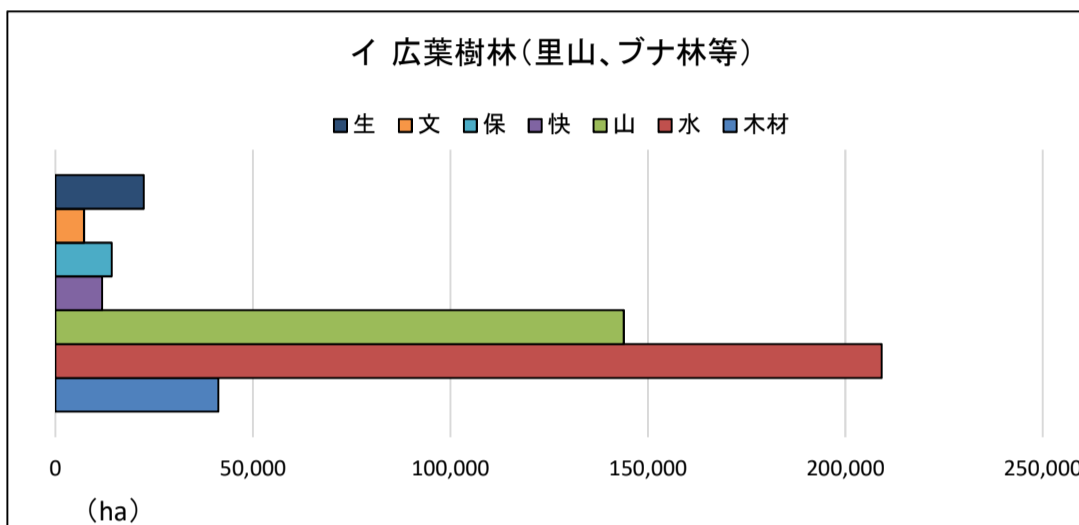
ア 条件不利人工林(一般私有林)  
区分面積62千ha

		面積
ゾーニング	木材	12,714
	水	30,172
	山	26,793
	快	1,819
	保	1,838
	文	732
	生	655
計		74,724



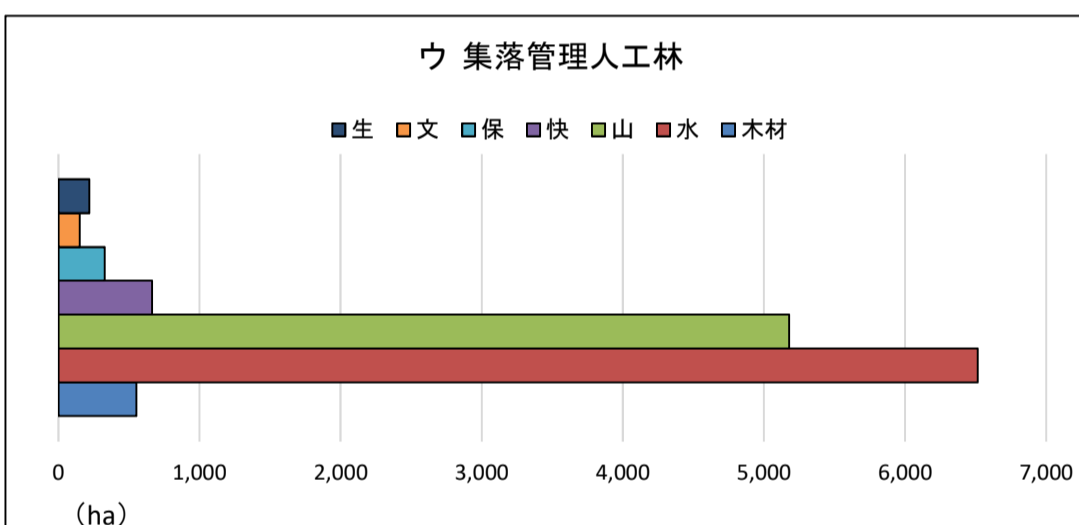
イ 広葉樹林(里山、ブナ林等)  
区分面積37千ha

		面積
ゾーニング	木材	41,323
	水	209,269
	山	143,915
	快	11,798
	保	14,233
	文	7,249
	生	22,326
計		450,113



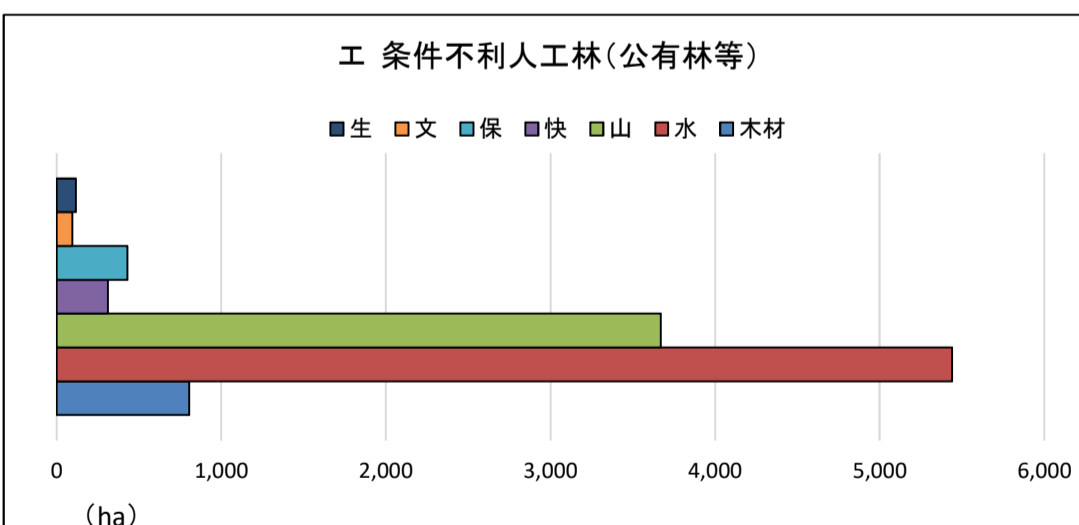
ウ 集落管理人工林  
区分面積10千ha

		面積
ゾーニング	木材	551
	水	6,516
	山	5,180
	快	665
	保	327
	文	151
	生	219
計		13,609



エ 条件不利人工林(公有林等)  
区分面積9千ha

		面積
ゾーニング	木材	806
	水	5,439
	山	3,671
	快	311
	保	430
	文	96
	生	116
計		10,869

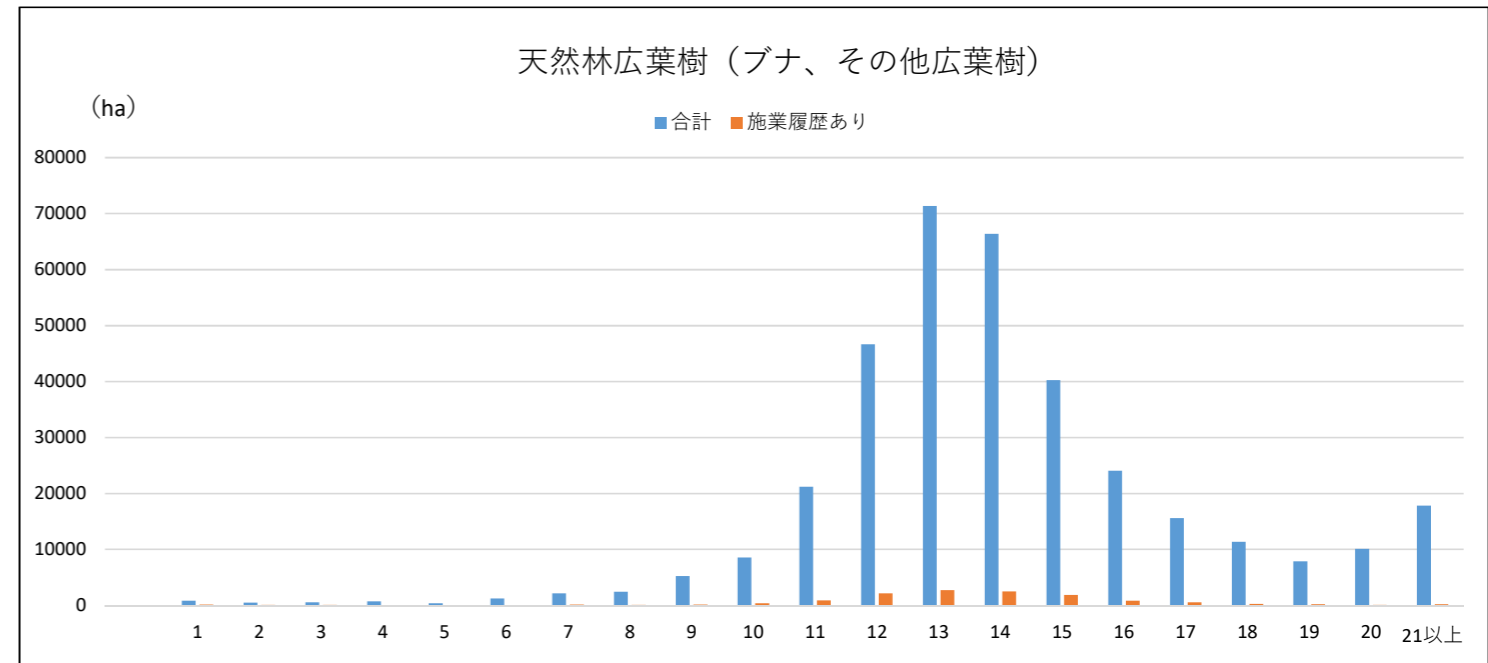
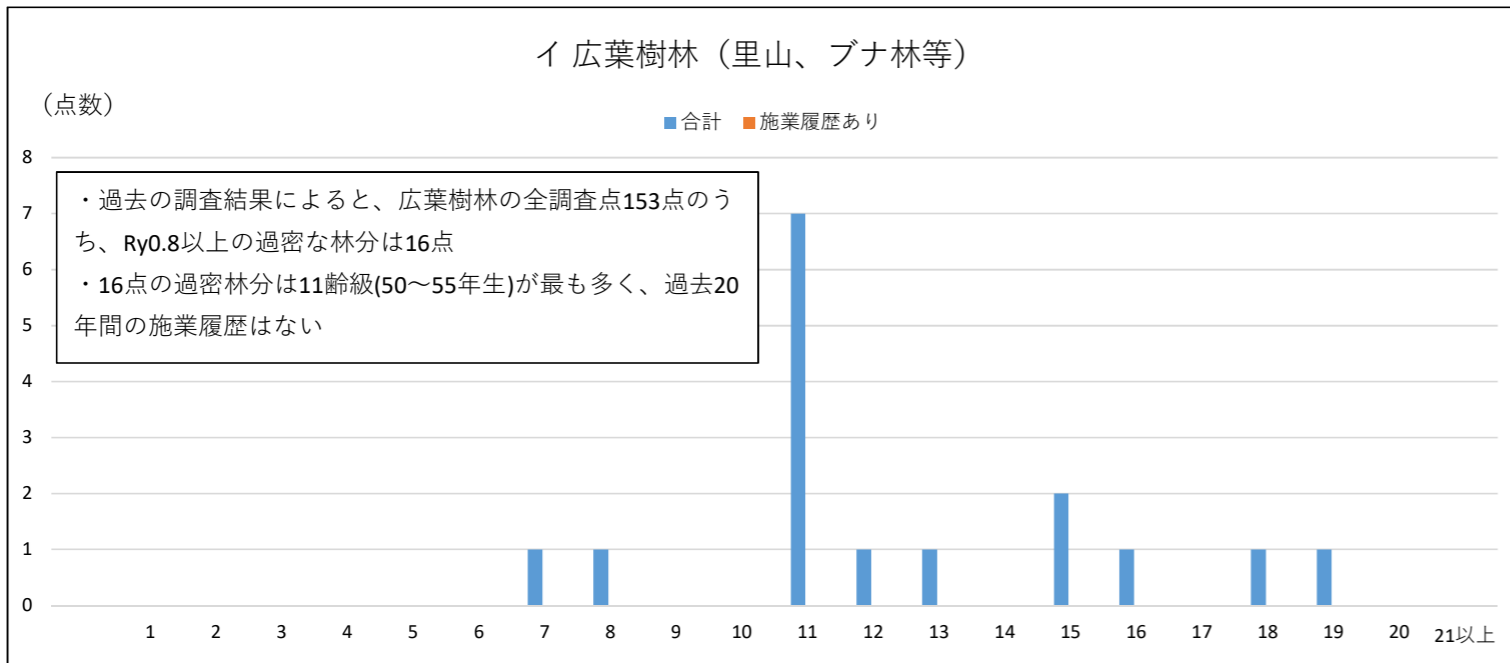
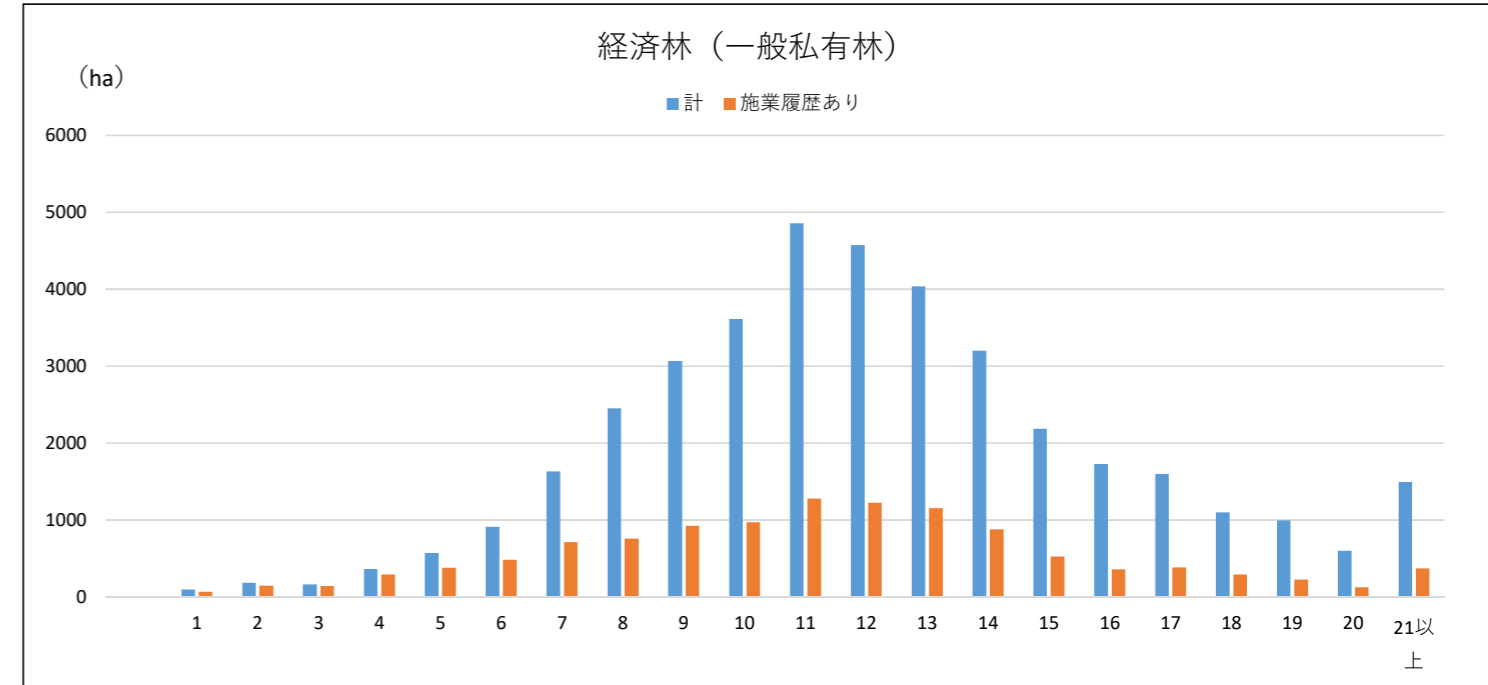
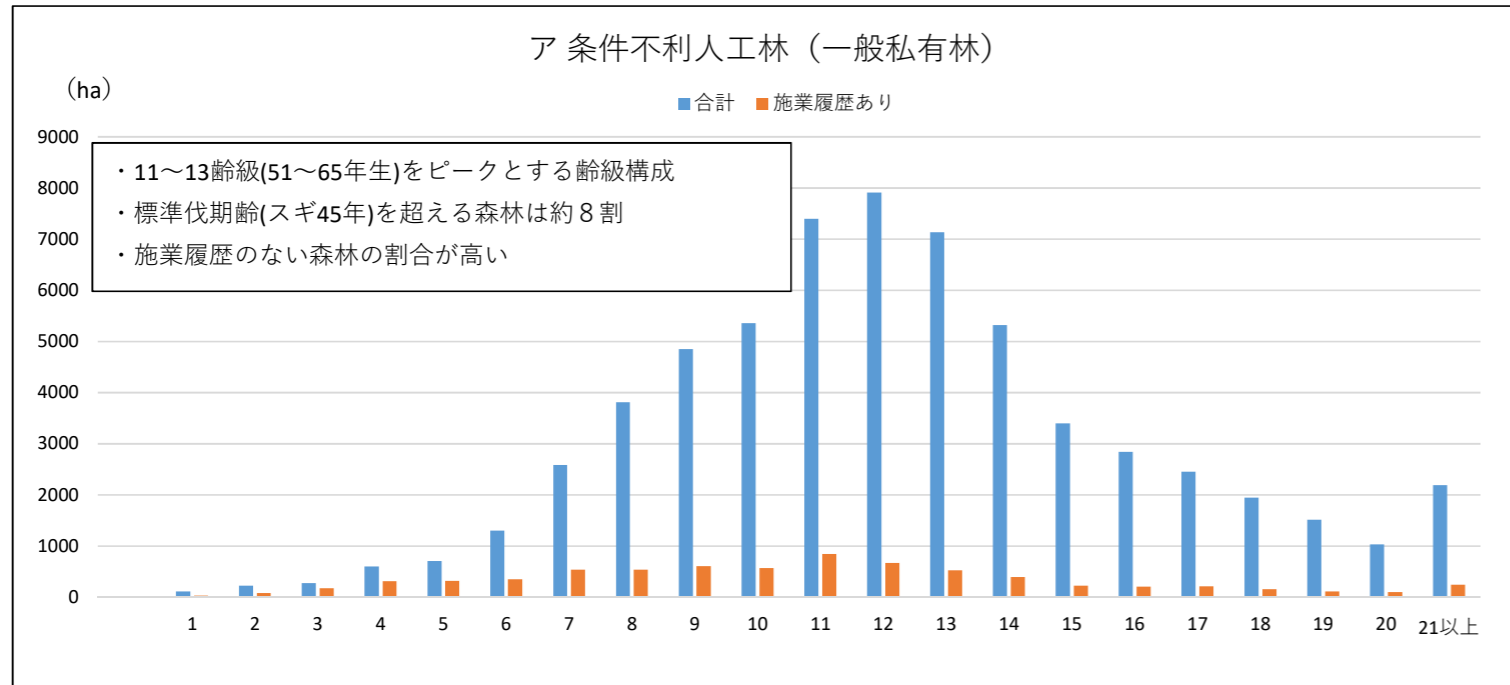


【凡例】

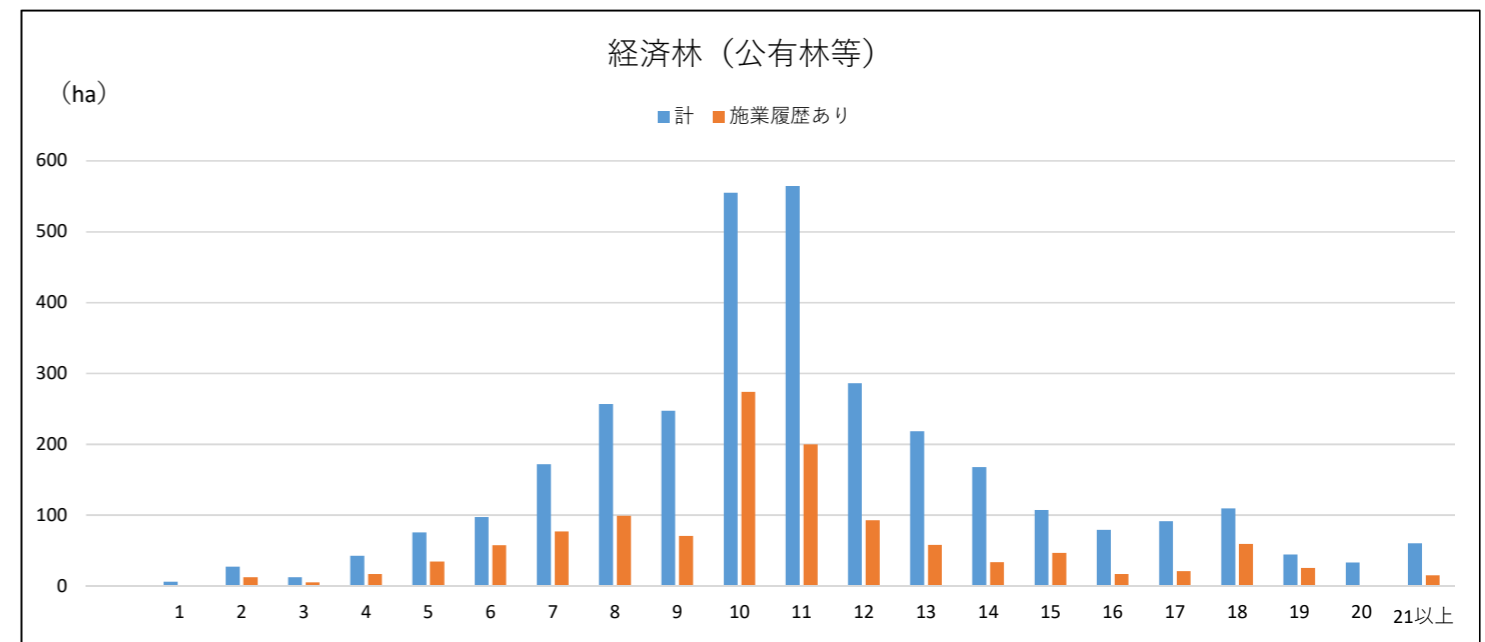
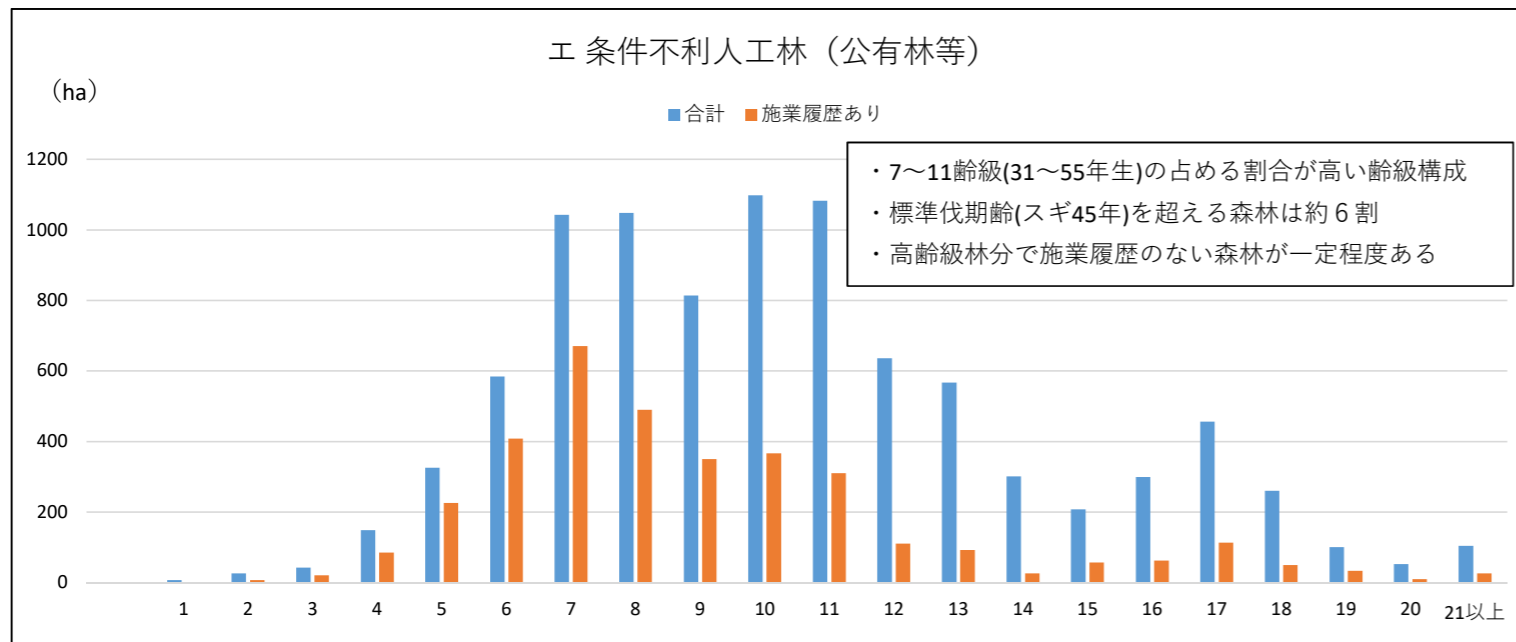
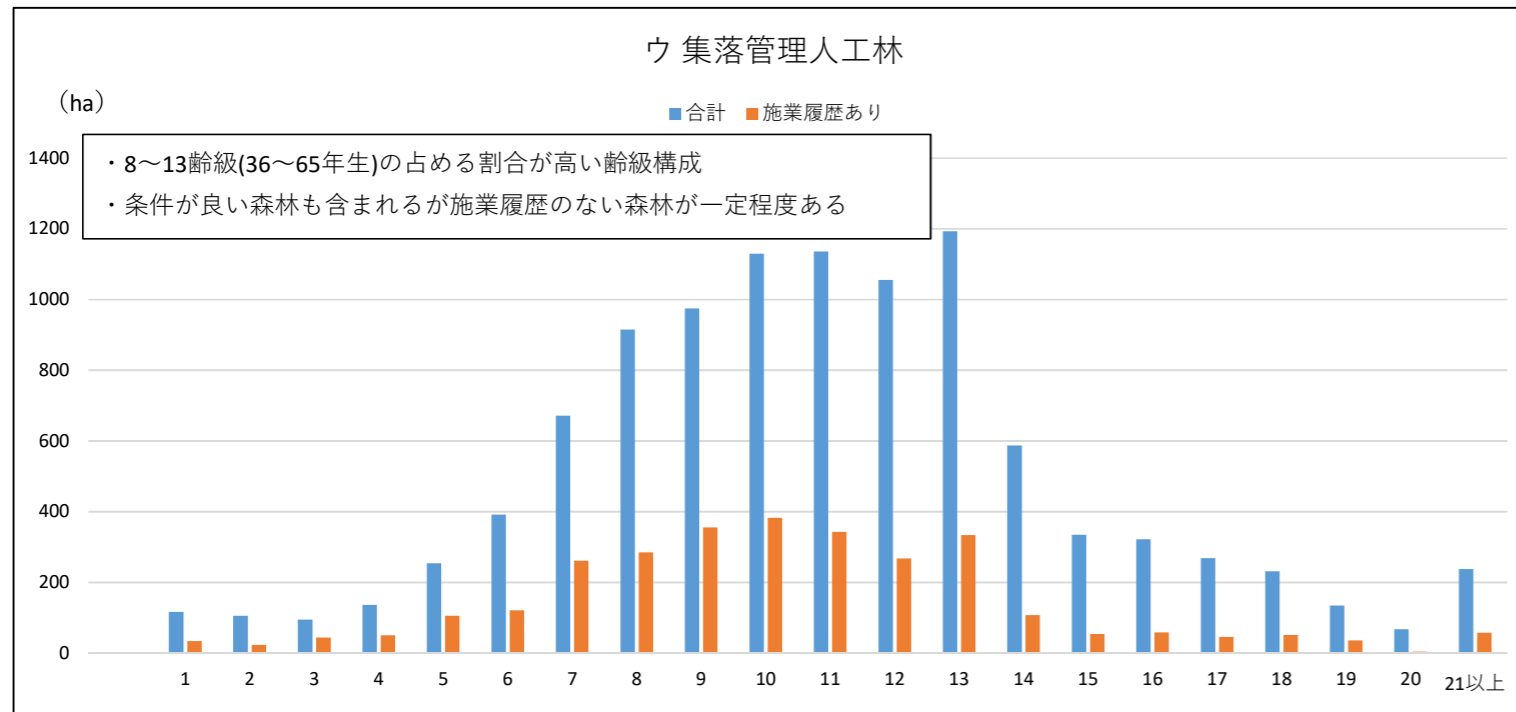
ゾーニングの名称	公益的機能別施業森林	水	水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
		山	土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
		快	快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林
		保	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林(保健・レクリエーション機能)
		文	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林(文化機能)
		生	保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林(生物多様性保全機能)
		木材	木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林(木材等生産機能)又は白地

※複数の機能と重複する森林があるため区分面積とゾーニング面積の計とは一致しない

# 区分ごとの齢級構成と施業履歴(過去20年)について (その1)



## 区分ごとの齢級構成と施業履歴(過去20年)について (その2)



## 部会検討におけるこれまでの主な意見

## 【 森林整備のあり方について 】

- ・ 広葉樹林の場合、元々はすべて原生林だったところを、人が何度も利用していく過程で、薪炭林のような構造になっている。それを、本来の森林の姿に戻していく。つまり、全体として林を大きくしていくことによって、公益的機能が良くなっていく。広葉樹に関しては、間伐だけではなく、いろいろな考え方があって良いと思っている。
- ・ 広葉樹は自然の治癒というか放置されていても機能のある程度維持している部分と、手を入れなければなかなか機能が改善しない、すでに荒廃していたり荒廃の危険が高いところに分けられるのではないか。
- ・ 鳥獣被害がひどいのは、緩衝帯がなくなってきたのがその原因と考えられる。広葉樹の里山の間伐等を行うことによって緩衝帯が出来てくる。
- ・ 鳥獣被害に関しては、集落自体が維持できずに5年10年もたないところも出てくる。そういったところが放置されており、そこに手を入れていくのは当然のことであると考える。従来、集落の活動を通じて結果的に緩衝帯が出来ていて、鳥獣被害がそれほど問題にならなかった。そうした観点から里山の公的関与は必要と考える。
- ・ 間伐効果が期待できるかということも大事な観点と思う。山を見ている人は効果を感じている人が一定数いる。